

＜ もくじ ＞	
1. 2022年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵」第3回のお知らせ	1
2. 第1回連続講座：「デジタルで広がる新しい世界～シニアが安心・便利にICTを利用するコツ」報告	1
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	4
5. 事務局からのお願い	6

1. 2022年度連続講座『長寿時代を生き抜く知恵』第3回のお知らせ

平均寿命が男女とも80歳を超え、ほぼ9割の人が65歳まで生きるという本格的な長寿時代がやってきました。長生きはめでたいことなのに、現在の日本では、少子化のさらなる進展、景気の低迷、物価高、コロナ感染への不安、国際関係の緊張など必ずしも長寿を喜べないような不安材料が山積しています。安心して高齢期を迎えるうえで、この講座がお役に立てることを心より願っております。なお、オープン講座ですので、会員以外の方の参加も歓迎いたします。

「第2回テーマ：介護が必要になったら～上手に使おう介護保険」（角田とよ子講師）は、10月15日（土）に終了いたしました。当日の結果については、次回のJAASNews第279号でご報告します。

◆第3回テーマ：成年後見制度と老後にかかるお金について～ライフプランと終活を考えよう

日 時：11月12日（土） 14：00～16：00

講 師：宗像亜矢子（コスモス成年後見サポートセンター埼玉支部会員・行政書士）

※ 東京家政学院大学との共催

※ 会場：東京家政学院大学三番町キャンパス 1301教室

※ Zoom併用によるハイブリッド開催

※ 参加費：会員・非会員共に 各回1,000円（支払い方法：Peatix、口座振り込み、当日会場にて支払の何れか）、学生無料

《チラシを添付しますので、お申込みいただければ幸いです。》

2. 第1回連続講座：「デジタルで広がる新しい世界～シニアが安心・便利にICTを利用するコツ」報告

◆第1回：「デジタルで広がる新しい世界～シニアが安心・便利にICTを利用するコツ」

日 時：9月10日（土） 14：00～16：00

講 師：八巻睦子（当学会運営委員、社会情報研究会）

＜概要報告＞

高齢社会を支える技術はジェロンテクノロジーやAgeTechと呼ばれ、研究・ビジネス両面において広がりを見せています。本講座ではまず高齢社会を支える技術の最新動向としてVR（Virtual Reality：バーチャルリアリティ）の認知症ケアへの活用、高齢者の金融行動をFintechにより分析する試み、介護ロボット・IoTの活用事例等を紹介しました。続いて、86歳のプログラマー、89歳にしてTwitterフォロワー数17万人の女性、87歳



のユーチューバーなど、デジタルを使いこなし積極的に情報発信するシニアについて、じっさいにYouTubeの動画を視聴するなどしながら取り上げました。しかし、デジタル社会はバラ色の未来ばかりではありません。最後に、デジタル社会を取り巻くリスクとして、「サポート詐欺・フィッシング詐欺・ワンクリック詐欺」という代表的な3つの犯罪について、その具体的な手口と対処策をお話しました。袖井会長からは、ご自身もサポート詐欺に遭遇し試行錯誤しながら撃退されたお話があり、これらのリスクが私たちにとって身近なものであることが改めて感じられました。参加者の皆様からは、デジタルを使いこなす高齢者と困難を感じる高齢者それぞれの特徴についての質問や、利用をサポートする体制整備の重要性、人と人との直接的コミュニケーションとのバランスをどう考えるか、など活発な意見交換がなされました。

(八巻睦子 記)

<アンケートの結果から>

参加者へのアンケートでは、多くの方からご回答をいただきましたが、ご参考までに代表的なご意見をいくつかご紹介いたします。

- * シニアが安心ということは、世代を超えてみんなが安心ということになりますね。仕事上ではデジタル化は効率化を含む質向上のために必須でしたが、生活全般にデジタル化が進み、キャッチアップしていくことで様々なサービスを楽しむことができます。本日オンラインで聴講させていただくにも、Peatix、Zoom、WebMailと使えているからで。まとめの言葉にもありましたが、無用に怖れず、取り入れて行こうと思いました。(非会員、女性、60歳代)
- * 高齢者を支える技術には、介護などの分野だけでなく資産や金融の分野にも及んでいることなど興味深かったです。(会員、女性、50歳代)
- * 国内の利用状況や海外の実状を知ることができた。(非会員、女性、40歳代)
- * シニア社会学会、また連続講座を重ねて開催しておられることを今回初めて知り、そうした機会に参加させていただきありがとうございました。九州におりますのでオンライン併催の効用です。(後略)(非会員、女性、60歳代)
- * スマートフォンやPC→デジタル社会→生活のデジタル化 整理がついた。(会員、男性、80歳代)
- * 大変勉強になりました。会場でマイクを使っただけでもっとよく聞こえてよかったと思います。そこだけー1です。(非会員、女性、50歳代)



3. 研究会からのお知らせ

(1) 第26回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年10月22日(土) 17:00:~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：認知症と任意後見制度

びしょうざ

劇団「B笑座」第12回。

「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

11月5日、江東区社会福祉士会で福祉劇団として開催予定です。

(2) 第145回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年10月26日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：小矢野正夫(小矢野キャリア研究所代表)
 - 3) テーマ：「時代の変遷、世代の変化、行動の変容~自分事として「高齢化」「キャリア」を考える」
 - 4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。
阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで
090-4436-6853

(3) 第81回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年10月27日(木) 15:00~18:00
 - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
 - 3) テーマ：発表と討議 — 赤瀬川原平著『老人力』(ちくま文庫)を読んで—「老人力」とは何かを考察する—
 - 4) 発表者：島村 健次郎
 - 5) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

(4) 第37回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年11月4日(金) 17:30~19:30 Zoom開催
- 2) テーマ：第167回芥川賞受賞作「おいしいごはんが食べられますように」
(高瀬隼子 著) を読み、自由に意見交換。

第167回芥川賞は候補者5人全員が女性。彼女たちが刻み込んだのは時代を包む「空気」、ワークライフバランス、コンプライアンス、企業倫理、多様性の尊重、パワハラ、モラハラ、セクハラ厳禁、その「正しさの尊重と配慮」の影で、肩代わりをする「我慢する人」、「できる人」にしわ寄せがいく。そうして世界は回っていく。

ポリティカルコレクトネス的な問いは、受賞作以外の候補作全作に共通するので、受賞作以外の作品をご紹介していただくことも可能です。担当：中村昌子

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。

(5) 第36回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2022年11月9日(水) 15:00~17:00
 - 2) 場 所：上野区民館(台東区池之端1-1-12) ならびにZoom開催
 - 3) 概 要：俱進会助成事業 インタビュー調査検討
- ※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(6) 「災害と地域社会」研究会の共催イベント開催のお知らせ

【6-1：講演・座談会】

- 1) 日 時：2022年11月26日(土) 13:30~16:00
- 2) 会場、開催方法：オンライン開催(Zoom)
- 3) テーマ：「わすれな草：東日本大震災遺族の記憶を記録し伝えることについて《当事者》と語り合う」
- 4) 講演・座談会：

■基調講演：藤原規衣(元岩手朝日テレビ記者・アナウンサー)

■座談会登壇者：藤原規衣、倉堀康(岩手県大槌町の震災遺族)、野坂紀子(同左)、野坂真

【6-2：映像配信】

- 1) 日 時：2022年11月27日(日)~12月11日(日)
- 2) 会場、開催方法：オンライン開催(YouTubeの限定公開)
- 3) テーマ：震災遺族の聞き書き記録集『わすれな草』動画版(インタビュー音声と写真およびX-1講演・座談会の記録映像)

- 4) 主 催：早稲田大学総合人文科学研究センター「現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究」部門
- ◆ 共 催：地域社会と危機管理研究所、シニア社会学会「災害と地域社会」研究会、早稲田大学総合人文科学研究センター「知の蓄積と活用にむけた方法論的研究」部門、大槌町安渡町内会
- ◆ 参加費：無料
- ※ お問い合わせ、参加のお申し込みは、長田(pfb00052@nifty.com)または、野坂(sn.nozaka@gmail.com)までお願いいたします。詳細は、添付のチラシをご覧ください。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第34回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2022年9月21日(水) 15:00~16:30
- 2) 場 所：Zoomによるオンライン
- 3) テーマ：俱進会調査研究 インタビューデータの整理方法と分担について
 - ・インタビューデータの整理方法検討
対象者別に、インタビューフローをカスタマイズした「入力フォーマット」へ発言項目毎に埋めていく。
次回研究会(10月19日)に中間報告を行う。
 - ・事前アンケートのデータ化、富田さんが一覧化を担当。 (森 記)

(2) 第80回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2022年9月22日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：発表と討議 — 職場における老若男女共同参画社会
- 4) 発表者：安田 和絃

発表に先立ち、前号JAASNews第277号の巻頭言「人新世という言葉に寄せて」について、濱口先生からひと言補足いただいた。環境問題は地球大の避けて通れない地球存亡にかかわる問題であり、資本主義の創造性と破壊性に如何に対面して行くかが日々問われているとの問題意識であると述べられた。

本題である安田さんの発表は、参加者に事前に送付した22ページに亘る資料に沿って行われた。テーマは、「職場における老若男女共同参画社会」であり、その目的は、「超高齢化社会」における「働き方」を、法律制度というフィルターを通して「エイジレス」と「ジェンダーフリー」の視点から論じること。そしてその背景としては、年代構成のアンバランス、「高齢者の労働力化」と「主婦の労働力化」そして3つの法律(①労働者派遣法 ②男女雇用機会均等法 ③改正高年齢者雇用安定法)についてその要点を解説された。次いで、企業の内情、再雇用の実態、高齢者就業の実態、今日的なエイジレスへの道とジェンダーフリーへの道について、ケーススタディとして電通方式の個人事業主制についての課題を重点的に解説された。結論として、当課題は法律でカバーはしているが、現実には難しい問題を抱えていると締め括られた。

発表の後、積極的な質疑応答・意見交換が交わされた。

最後に濱口先生は3つの観点を述べられた。1つは「立派な人」について、2つは「男女共同基本法」について、そして3つ目は、「1972年(昭和47年)」について。1972年は特異な年であり、現在諸現象を時代動向というタテ軸を立て有機的に分析し、日本が中間層の国になり、新しい課題として方向感覚喪失に陥っていく有様を記述したいと考えているとコメントされた。(島村 記)

(3) 第25回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2022年9月24日 17:00~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症を楽しく過ごすには

びしょうざ

劇団「B笑座」第11回。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。日々の練習の成果がでているでしょうか Zoom 参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

(4) 第144回「社会保障」研究会

- 1) 日 時：2022年9月28日(水) 18:00~20:15
- 2) 報告者：大上真一(国際長寿センター日本・客員研究員)
- 3) テーマ：海外の高齢者支援最新情報 オランダ、ドイツ、イギリス、デンマーク、オーストラリア
- 4) 参加者：26名

国際長寿センター(日本)は1990年より、海外16か国の姉妹センターとともにプロダクティブ・エイジングを目指して調査・研究やシンポジウム開催、啓発活動を行っている。そして近年、オランダ、ドイツ、イギリス、デンマーク、オーストラリアを主な調査対象国として、高齢者の地域における貢献とともに、全国および地域の高齢者支援制度を調査し、国際比較研究を進めてきた。

その中で、ヨーロッパ諸国においては2000年代から2010年代において高齢者観の転換を含めたパラダイムシフトが進んでいることを見出し、この流れは日本にとっても大きな示唆を与えるものであると考えている。

すなわち、オランダにおける介護保険(WLZ)の範囲の縮小と地域サービス(WMO)の拡大であり、とドイツの介護保険(部分保険)における高齢者の自立の重視であり、イギリスの全人的なウェルビーイング中心の考えであり、オーストラリアおよびデンマークのリエイブルメント志向である。

これらはいずれも、高齢者自身による生活のセルフマネジメント事項の高まりを背景として、高齢者を弱者とみる古い福祉国家観から、高齢者は社会の一員であり地域に貢献する存在であるとの参加型社会への移行という視点の転換を含んでいる。この結果、高齢者支援においても「(ケアを)してあげる do for」存在から「ともにする do with」存在、さらに「手を後ろに回したケア(デンマーク)」が徹底されつつある。また、高齢者自身が中心となった活発な地域活動が高齢者の在宅生活の継続にとって従来にも増して重要な意味を持つことになっている。

報告後の質疑では、高齢者観の転換はどのように進められていったのかとの問題意識からの質問、またボランティア活動の持続可能性についての質問も提出された。いずれにおいても一朝一夕の解決というよりも高齢者本人の意識変革も含め地域住民、地域団体、地方自治体、国のそれぞれの関係者のためまぬ努力によって進められていくであろう、など活発に意見交換が行われた。(大上真一 記)

(5) 第36回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2022年10月5日(水) 17:30~19:30 Zoom 開催
- 2) 報告者：テーマ1(柴本淑子さん) テーマ2(清水春代さん)
- 3) テーマ1：「これでいいのか。変化する日本語表現」

テーマ2：地域包括ケアシステムに学ぶコミュニティ in 高崎

今回は、二人の研究会メンバーに一時間ずつ、ファシリテーターを担っていただき、それぞれのテーマで活発な意見交換の場となりました。

【テーマ1 これでもいいのか。変化する日本語表現】

言葉は生きています。新しい言葉が次々に生まれたり、使われなくなったり、意味が変化したり。そんな気になる言葉を検証して、正しい日本語とは何かを考えました。まず懸念されるのは、人によって言葉の解釈が違う場合です。例えば、なし崩し。「なかったことにすること」と思っている人が65.6%、「少しずつ返していくこと」は19.5%(文化庁調査)。正しくは後者です。これでは借金を返さない人が増えて混乱してしまいます。

間違った使い方でも、みんなが間違えるようになれば、それがいつしか正しい日本語になるケースもあります。独壇場(どくだんじょう)はもともと独擅場(どくせんじょう)でした。しかし壇と擅がよく似ているため、独壇場になってしまいました。最近の言葉で気になるのが爪痕です。戦争の爪痕、大地震の

爪痕というように本来はあまりいい意味では使われませんが、最近の若者は自分がいいことをするのを爪痕と表現します。

では正しい日本語とはなんなのでしょうか。正しい・正しくないの明確な境界線はありません。日本語に深く関わる人たちがそれぞれに考える“正しい日本語”は、最大公約数では重なりますが、微妙に見解が分かるところもあります。広辞苑に載れば正しい日本語として認められたという見方があります。広辞苑はほぼ10年ごとに改訂され、新しい言葉でも20年ほど継続的に使われれば載せるからです。

私は編集者として長年仕事をしてきましたが「影響力の強いメディアが率先して日本語を崩してはいけない」という考えです。若い書き手はつい仲間うちで話すような感覚で書くので、原稿にはしっかり目を光らせて、常に正しい表現を心がけています。(柴本淑子 記)

【テーマ2：地域包括ケアシステムに学ぶコミュニティ in 高崎】

「地域包括ケアシステム」とは介護保険法の中で、超高齢社会を迎えた現在、「要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう地域内で助けあう体制」と定義され、住民主体による生活支援サービスに対して、各自治体が支援する体制である。更に令和3年改正によって「高齢者だけでなく、児童や障害者、その他地域の中で様々なニーズを持つ人たちを、地域住民同士が助け合う「共生社会」の構築」とされ、地域包括ケアシステムは共生社会を実現するための方策として位置付けられた。

発表者は、安部氏襲撃など痛ましい事件が続出する背景の一因を、人間関係の希薄化、孤立と推測し、地元である群馬県高崎市の支援活動の一部を紹介した。高崎市では多くのNPO法人やボランティア団体などが上記政策の下で”居場所づくり”の活動をする他、町内活動として清掃活動、あいさつ運動、通学路見回りでの声掛けや、県の依頼を受けた民生委員の「地域住民として、助けを求める声を出せない人、出さない人の早期発見」のための活動も比較的活発に行われているようだ。

発表に対し、高崎市は市民連携のつなぎ役をきちんと果たしている。首都圏等の人口が多い地域では、他人との関係性を望む人は少ない地域もあり、実施は難しいのではないかとまずは啓発活動が必要。マンション等はお隣の人とは挨拶位しか行っていない。高齢者が多い地域では雪かき等重労働を助けてくれるボランティア等が必要である。日本人は“恩返し”の観念はあるが“恩送り”の観念はない等、多数の意見が出た。(清水春代 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

＜会員情報変更時のご連絡のお願い＞

コロナ禍中、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。

当面、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

＜11月JAAS Newsの発行日＞

次回JAAS News第279号の発行日は、11月23日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、11月16日（水）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>